

者国中に充滿す。青天曠を為し黄地天學を至す。涓り聚りて塹塹を破るが如く、民の愁い積りて国を亡す等是なり。問うて云く、内外の諸積の中には是の如きの例之有りや。答えて曰く、史臣吳競大宗に上る表に、「窃に惟れば大宗文武皇帝の政化、曠古より之を求めて未だ是の如くの盛りなる者有らず。唐の堯・虞の舜・夏の禹・殷の湯・周の文武・漢の文景と雖も皆未だ逮ばざる所なり」云云。今此の表を見れば、大宗を慢せる王と云うべきか。政道の至妙先聖に超ゆるを讃むる所なり。章安大師天台を讃めて云く、「天竺の大論尚其の類に非ず。真丹の人師何ぞ勞わしく語るに及ばん。此れ誇耀に非ず、法相の然らしむるのみ」等云云。從義法師重ねて讃めて云く、「竜樹・天親未だ天台には若かず」。伝教大師自讃して云く、「天台法花宗の諸宗に勝ることは、所依の經に拠る。故に自讃毀他ならず。庶は有智の君子經を尋ねて宗を定めよ」云云。又云く、「能く法花を持つ者は亦衆生の中の第一なり。已に仏説に拠る。豈自歎ならんや」云云。

今愚見を以て之を勸うるに、善無畏・弘法・慈覚・智証等は皆仏意に違うのみに非ず、或は法の盗人、或は伝教大師に逆える僻人なり。故に或は閻魔王の責を蒙り、或は墓墳無く、或は事を入定に寄せ、或は度度大火・大兵に値えり。権者は恥辱を死骸に与えずの本文に違えるか。疑いて云く、六宗の如く真言の一宗も天台に落ちたる状之有りや。答う、記の十の末に之を載せたり。随いて伝教大師依馮集を造りて之を集む。眼有らん者は開きて之を見よ。冀しきかな、末代の学者、妙楽・伝教の聖言に随いて、善無畏・慈覚の凡言を用うること勿れ。予が門家等深く此の由を存ぜよ。今生に人を恐れて後生に悪果